共にしあわせ産みだす日本共産党

市議団ニュース

第２０９７号
２０２４年3月３１日
日本共産党根室市議団
根室市宝林町４－２０３
TEL ２３－６０２３
FAX ２４－１６８４

２月定例月議会特集その３

３月８日に行われた本会議で、日本共産党市議団の鈴木は一般質問を行いました。前々号の市議団ニュースで質問要旨を一部掲載しましたが、前号の代表質問に続き、今号では一般質問の内容を、市長の答弁を中心にご報告します。

「防災・減災対策の更なる強化」について

【質問】避難所においても被災者の人権、プライバシーは保障されなければならない。誰もが安心して避難生活を送られるような配慮が必要であると考える。市長の見解は。

【答弁】避難所における被災者の人権・プライバシーの尊重と、誰もが安心して避難生活を送られるための環境整備は、※スフィア基準の中でも謳われており、重要な課題の一つとして捉えている。市は、地域防災計画や避難所運営マニュアルで、要配慮者への対応やプライバシー確保のための対策を定め、テントやパーテイションなど避難所用資機材の拡充を進めてきたが、今後においても誰もが安心して避難生活を送ることができる環境の確保に向け、避難所対策を推進していく。

※スフィア基準＝正式名称『人道憲章と人道支援における最低基準』災害、紛争の影響を受けた人の権利、その人たちを支援する活動の最低基準を定めたもの

【質問】ペット同伴の避難について。飼い主の方々にとっては、家族の一員であるペットとともに避難生活を送ることを望まれているはず。飼い主の方々に協力いただき、ペット同伴の避難訓練を行ってはいかがか。

【答弁】ペット同伴の避難訓練の実施は、飼い主の皆様への事前の備えの普及啓発を図るうえでも有効な取り組みであることから、令和６年度に計画する北海道防災訓練での避難所運営訓練のメニューの一つとして実施に向け検討していく。

「非核平和都市宣言のまち」としての取り組みについて

【質問】ウクライナやガザなど、戦争、紛争が続く中、非核平和都市宣言の根室市として、市民の記憶に残るような、平和の尊さを訴える事業を行うべきでは。

【答弁（総務部長）】広報ねむろで根室空襲に関する記事の掲載に向けた検討を行っている。また、パネル展等の開催についても、過去に「広島・長崎原爆写真パネル展」を開催したこともあるので、それらを含め関係部署と検討していく。

予算審査特別委員会での主な質疑内容

各事業・特別会計予算審査特別委員会での、鈴木委員の主な質疑内容を報告します。

港湾事業会計（賛成）

少なくともここ20年はなかった、赤字予算を計上したことについて質疑を行いました。

その要因は、新年度に大々的に行われる予定の、老朽化が進んでいる水産上屋の整備費用を計上しているためです。赤字分は、これまでの黒字でため込んできた「貯金」で補填されます。

水道事業会計（賛成）

人口減少による料金収入の減少等により、令和12年度には内部留保資金が枯渇する厳しい経営状態になると予測されます。将来的には料金改定も想定されますが、人が生きていく上で欠かせない水の料金は、住民に負担を押し付けるのではなく、安心で安価な水の供給に国が一定の責任を持つべきものと考えます。

病院事業会計（反対）

主に看護師不足対策について質疑。市立病院では、看護師不足により、一部病棟を閉鎖せざるを得ない状態となっています。病院側も様々な対策を行っていますが、なかなか効果は表れません。鈴木委員は、看護師確保に向けて、病院だけではなく全庁的な体制をとるべきだと訴えました。

国保会計（反対）

12月から「マイナ保険証」に移行する可能性が高くなっています。移行すると「短期保険証」は廃止されますが、鈴木委員は、廃止されたとしてもきめ細やかな納付相談の継続を求めました。

後期高齢者医療保険会計（反対）

4月から保険料が上がり、被保険者の負担がますます大きくなります。日本共産党は、医学的根拠もなく年齢（75歳）で区切り、高齢者に負担を押し付ける制度そのものに反対しています。

意見書の採択

日本共産党が提案した「被災者生活再建支援法の支援対象と支援金の拡充を求める意見書」は全会一致で、「訪問介護報酬引き下げの撤回を求める意見書」は賛成多数で、いずれも採択されました。